

平成27年8月15日(土)

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会

会員の皆様へ

《7・8月度農場便り》

「若者がまた今年もやってきた」

先ず以て7月が忙しく農場便りが7, 8月合併号になったことお詫び申し上げます。非常に暑かったこの夏もここ数日朝晩はすっかり涼しくなり過ごし易くなりました。稲穂も順調に花を咲かせております。畑では冬野菜の大根、かぶ類の播種も始まりました。昨年の8月は雨が多く日照時間は平年の1/3、夏野菜は不作でした。打って変わって今年のはかんかん照りの毎日です。天気への対応に苦慮しているところです。それでも標高が850mと高い大泉は朝露が降りて自然の給水が出来助かっています。ところで今年は7月下旬に神奈川県立高校の学生の農業体験、8月10, 11日は例年の麻布高校の農業体験と高校生の受入が続きました。無限の可能性を秘める若者たちとの交流は年齢を忘れさせてくれるひと時でもあります。神奈川の受入は今年初めてです。先生二人、生徒二人と少人数、一方家庭科学習の一環として受け入れている5年目の麻布高校は先生一人、生徒8人と人気のプログラムとなっているそうです。冬野菜の鍬を使っての畝作り、種まき、苗づくりから夏野菜の管理、収穫とそれぞれ3泊4日、1泊2日の短期間でしたが暑い中一生懸命取り組んで頂きました。驚いたことは若い高校生たちが食に関して高い意識を持っていることでした。TPP問題に絡めて「付加価値の高い無農薬・無肥料の自然栽培野菜は生き残れますね」、「自然栽培野菜があるとは知らなかった。ブランド力が無いのでは」などと心強い意見も出て来るほどです。またアルバイトをして美味しい食事の食べ歩きをしている若者もいました。夕食後に自然栽培の取り組みについての講和を1時間ほど行うのですが真剣な聴講姿勢にこちらが緊張するほどです。自分自身の高校時代のことを思い起こすに農村地帯に育ちながら農業、食には全く無関心であったことを思うと穴があったら入りたいほどです。この国の現状は農林水産業の一次産業は衰退の一途を辿り田舎が消えていく状況です。今後更に少子化が進み、社会の枠組みは大きく変化していくでしょうが今回参加の若者たちと交流する限り、低い自給率含め食、農の問題ははじめこの国の行く末も大丈夫だなと頼もしく思えました。ともあれ人を受け入れることは大変なことですがこの歳になり多感な高校生に自然栽培農法を短期間ですが体験して頂けることに感謝する次第です。これも会員の皆様の今までのご協力の賜物と心よりお礼申し上げます。

・大根播種用マルチ畝作り (7/27)



・白菜ポット播種 (8/11)



八巻珍男

メール yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp

携帯080-3080-3017